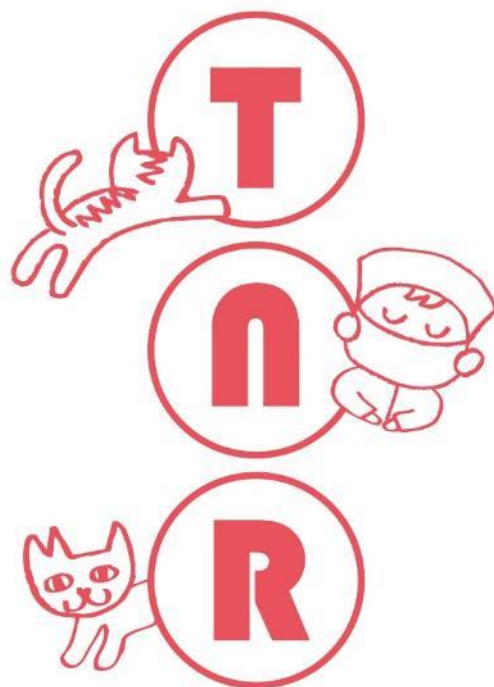


多頭飼育崩壊手術支援（石川県）

実施報告書



doubutukikin since 1988

主 催：公益財団法人どうぶつ基金

共 催：石川アニマルフレンズ

NPO猫の避妊と去勢の会

小松猫の輪

日 程：平成29年1月28日（土）・29日（日）（手術日）

石川県金沢市多頭飼育崩壊現場

申請日：2017年1月20日

場所：石川県金沢市

実施責任者：金沢市保健所長

協力団体：石川アニマルフレンズ

NPO猫の避妊と去勢の会

小松猫の輪

居住環境：金沢市 市営住宅（2LDK）

居住者：70歳の女性一人暮らし

生活保護の需給状況：受給している



©公益財団法人どうぶつ基金

目的

多頭飼育崩壊状態にある当事者宅の全頭不妊手術の実施により、繁殖を抑制し、管理できる数にとどめる。また不妊手術により、猫の鳴き声や糞尿被害を抑える。

背景（報告書より）

猫は、はじめ2頭であったが、1頭が外に逃げ妊娠して帰ってきた。その子供と交配し、3年で20頭以上に増え、現在、2LDKの部屋で38頭の猫を飼育している。家の中には猫によりかなり傷んでいる。当事者は年金とアルバイトで生計を立てており、生活するので精一杯であるため、猫には不妊去勢手術を全く受けさせていない。

市営住宅課から猫を処分するか退去するかの選択を迫られ、保健所に相談。

当事者から訴えのあった翌日に保健所担当が当事者宅を訪問し、猫の飼育状況を確認した。金沢市保健所がどうぶつ基金に支援を申請し、動物愛護団体と協力して手術を行うこととなった。

金沢市保健所の報告書より

- 1月4日 多頭飼育者から電話があった。
(主訴) 市営住宅で猫を飼っていたことが判ってしまい、市営住宅課から猫を処分するか市営住宅から出て行くか選択を迫られている。猫は、はじめ2頭であったが、1頭が外に逃げ妊娠して帰ってきた。その子供と交配し、3年で20頭以上に増えた。
- 1月5日 飼い主宅を訪問し、猫の飼育状況を確認した。(32頭の猫を確認)
保健所からどうぶつ基金へ相談を行った。
- 1月13日 保健所から動物愛護団体(石川アニマルフレンズ)に、飼い主への援助(猫の飼養管理等)について相談した。結果、同団体が主体となって猫の里親募集を行うこととなった。
- 1月18日 石川アニマルフレンズが飼い主宅を訪問。家の掃除、トイレの設置、餌の供給、など、飼い主への援助を開始した。
- 1月27日 飼い主宅で猫を捕獲し、手術場所に搬送した。
猫の正確な頭数は38頭であると判明した。
- 1月28/29日 28日に24頭、29日に14頭の手術を行った。9頭は手術後、石川アニマルフレンズが引き取り、29頭が飼い主宅へ戻された。



●金沢市小動物管理センター が手術会場



●手術を待つ猫たち

タイムスケジュール

協働人数

所属		
どうぶつ基金		
ボランティア獣医師		
金沢保健所		
石川アニマルフレンズ		
NPO猫の避妊と去勢の会		
小松猫の輪		

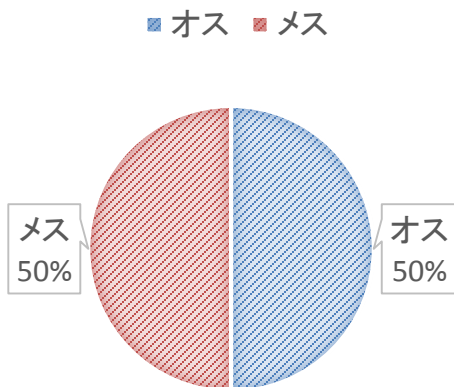
出張手術数

手術日	オス	メス	妊娠メス	耳カットのみ	計
1月28日（土）	12	7	5	0	24
1月29日（日）	7	6	1	0	14
合計	19	13	6	0	38

処置内容

不妊去勢手術、ワクチン、
ノミ・ダニ・回虫の駆除薬
（レボリューション）、
点眼、補液50cc

オスメスの割合



手術後の経過と今後の計画

里親に出した数：9頭

現場に戻した数：29頭

全頭術後の経過は良好である。飼い主は全ての猫の譲渡に同意しており、飼い主宅に戻された29頭は石川アニマルフレンズの指導・援助により里親募集を行い、譲渡する予定である。



● 準備風景



● 獣医師が猫の状態をチェック



● 最初にお腹の毛を剃る



● 執刀医：足立獣医師



今回は金沢市小動物管理センター処置室で手術が行われた。多頭飼育崩壊に対して行政が地元ボランティアと協働して取り組んだ結果、問題は解決へと向かっている。多頭飼育崩壊に対する行政の対応として非常にいい成功例を残すことができた。

どうぶつ基金理事長 佐上邦久



公益財団法人どうぶつ基金

石川アニマルフレンズ
NPO猫の避妊と去勢の会
小松猫の輪